

# ポートレットとして NXJ アプリケーションを実行

---

NXJ アプリケーションは、NXJ ポートレットインテグレーション機能を使用して、サードパーティポータルポートレットとして実行することができます。NXJ ポータルで NXJ アプリケーションを実行するために「NXJ ポータルでの NXJ フォームのアプリケーションの実行」を参照してください。

ポータルは、機能豊富な Web サイトで、従業員、顧客、ビジネスパートナーに情報の統一化と個別のビューを提示して、企業データとアプリケーションへの 1 つのアクセスポイントを提供します。ポータルは、コンテンツとポートレットを含むそれぞれのページで、タブに基づいた操作を行う複数のページをサポートします。

以下は、Unify の Web ページと NXJ チュートリアルアプリケーションの XReport フォームの 2 つのポートレットを含む WebLogic 8.1 ポータルのページです。



Unify NXJ ポートレットインテグレータ機能は、ポートレットとして Unify NXJ アプリケーションの実行に必要なポータル定義情報を自動的に作成します。ポータルは、ポータルソフトウェアベンダーのツールを使用して、開発や管理を行いません。

BEA WebLogic 8.1 のポータル (WebLogic)、または Oracle 10g で実行するポータルのみが、Unify NXJ ポートレットインテグレータ機能によってサポートされます。その他のポータル製品のポートレットとして Unify NXJ アプリケーションを配置するためには、使用するポータルのベンダーのドキュメントを参照してください。

このドキュメントは、BEA WebLogic のポータル、Oracle 10g のポータルのポートレットとして、NXJ アプリケーションを追加する作業について説明します。

---

## WebLogic の NXJ アプリケーションポートレットの作成

Weblogic ポータルの Unify NXJ アプリケーションのポートレットを作成するには、以下のタスクで説明されているように、最初にポートレット定義の情報を作成して、次にポータルサーバのポートレットを構成します。

### タスク 1: ポートレット定義の指定

この情報は、ポータルサーバに直接渡され、ターゲットポータルのポートレットの作成にリザルトします。ポートレット定義の情報を指定する 2 つの方法があります。

- NXJ アプリケーションデザイナーから

開発環境のポートレットをテストする場合、このメソッドを使用します。ポートレットは、NXJ アプリケーションデザイナーで使用されている同じコントロールセンタで実行している 1 つ以上のポータルで作成されます。

- NXJ コントロールセンタから

実行環境のポータルにポートレットを追加する場合、このメソッドを使用します。ポートレットは、NXJ コントロールセンタで使用されている同じコントロールセンタで実行しているポータルサーバ上で作成されます。

### NXJ アプリケーションデザイナーからポートレット定義を指定

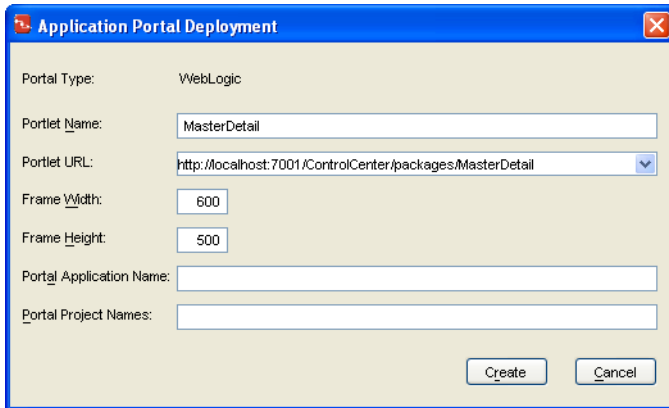
NXJ アプリケーションデザイナーからポートレット定義を指定するステップは、以下のとおりです。

1. カレントのアプリケーションサーバタイプを確認します。

NXJ アプリケーションデザイナーが使用するコントロールセンタは、WebLogic アプリケーションサーバ上で実行されている必要があります。ターゲットポータルは、配備、実行されている必要があります。

コントロールセンタが NXJ アプリケーションデザイナーで使用される方法についての詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』の第 2 章の「NXJ アプリケーションデザイナーのカスタマイズ」で「コントロールセンタ」を参照してください。

2. NXJ アプリケーションデザイナーで、ポートレットとして構成する完成したアプリケーションのプロジェクトを開きます。
3. カレントアプリケーションパッケージが配備されていない場合、**プロジェクト > 配備** を選択して配備します。
4. **プロジェクト > ポータル配備の作成** を選択します。  
アプリケーションポータル配備ダイアログが表示されます。



NXJ アプリケーションデザイナーが、NXJ ポートレットインテグレータ機能のサポートをライセンスされている場合のみ、このコマンドがプロジェクトメニューに表示されることに注意してください。

5. ダイアログのフィールドに以下の情報を入力、または確認します。

**ポータルタイプ**（読み取り専用）：カレントコントロールセンタのアプリケーションサーバのタイプ。WebLogic を指定します。

**ポートレット名**：ポータルで識別されるポートレットの名前。デフォルトで、カレントプロジェクト名が使用されます。この例では、名前は MasterDetail です。

**ポートレットの URL**：ポータルで NXJ アプリケーションの開始で使用する URL。現在、配備されているアプリケーションのエントリポイントがドロップダウンリストに表示されるので、その中から選択します。別の URL を入力してポートレットに含むこともできます。

**フレームの幅**：ポータルページのポートレット領域の幅（単位：ピクセル）。デフォルトは 600 です。

---

**フレームの高さ**：ポータルページにおけるポートレット領域の高さ（単位：ピクセル）。デフォルトは 500 です。

**ポータルアプリケーション名**：ターゲットの Weblogic ポータルサーバで定義されるポータルアプリケーションの名前。この例では、ポータルアプリケーション名は testPortal です。

**ポータルのプロジェクト名**：セミコンマで区切られたプロジェクト名の一覧。ポートレットが追加されるターゲットプロジェクトです。この例では、ポータルのプロジェクト名は、testPortalProject です。

6. **作成** ボタンをクリックします。

コントロールセンタは、ターゲットポータルのポートレットを作成します。

7. タスク 1 は終了です。[7 ページ](#)のタスク 2 を続けます。

## NXJ コントロールセンタからポートレット定義を指定

NXJ コントロールセンタからポートレット定義を指定するステップは、以下のとおりです。

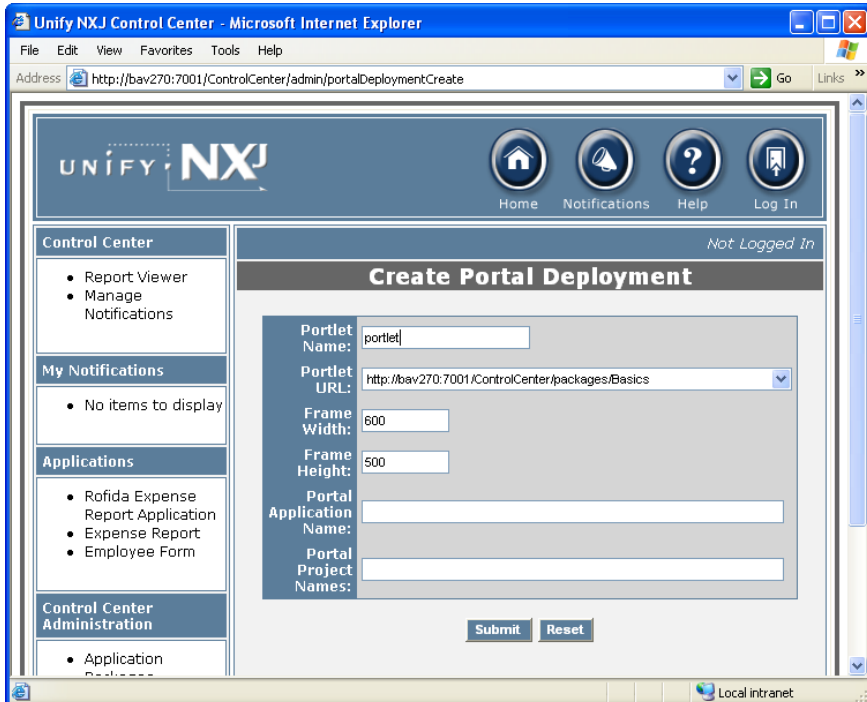
1. NXJ コントロールセンタを開始します。

2. カレントのアプリケーションサーバタイプを確認します。

カレントのコントロールセンタは、WebLogic アプリケーションサーバ上で実行されている必要があります。

3. **Control Center Administration > Control Center Properties > Create Portal Deployment** を選択します。

Create Portal Deployment ページが表示されます。



4. 同じ名前の NXJ アプリケーションデザイナーダイアログの説明と同様に、このページのフィールドに入力、または確認します。 [4 ページ](#) のステップ 5 を参照してください。

このページでは、ポートレットのデフォルト名は、NXJ コントロールセンタから提供されます。NXJ アプリケーションデザイナーのように、アプリケーションパッケージ名で表示されません。必要に応じて、別のポートレット名を入力します。この例では、名称 “MasterDetail” が入力されています。

ポートレット URL のドロップダウンリストから、アプリケーションのエントリポイントを選択します。

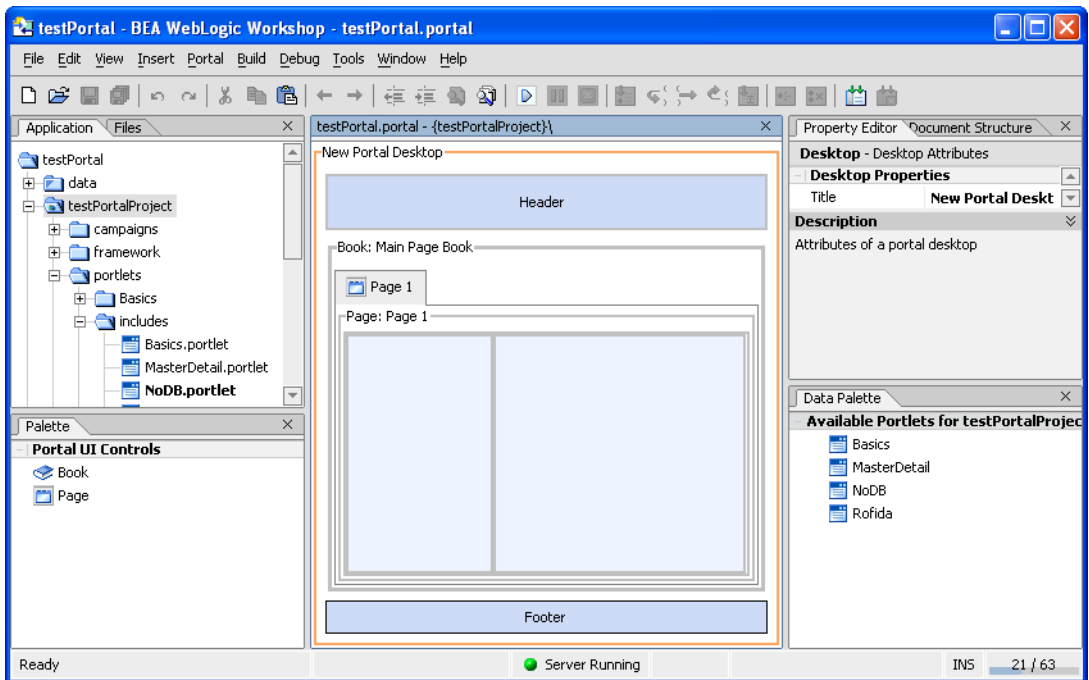
5. **Submit** ボタンをクリックします。
6. 必要に応じて、NXJ コントロールセンタを終了します。

## タスク 2: ポータルサーバのポートレットを構成

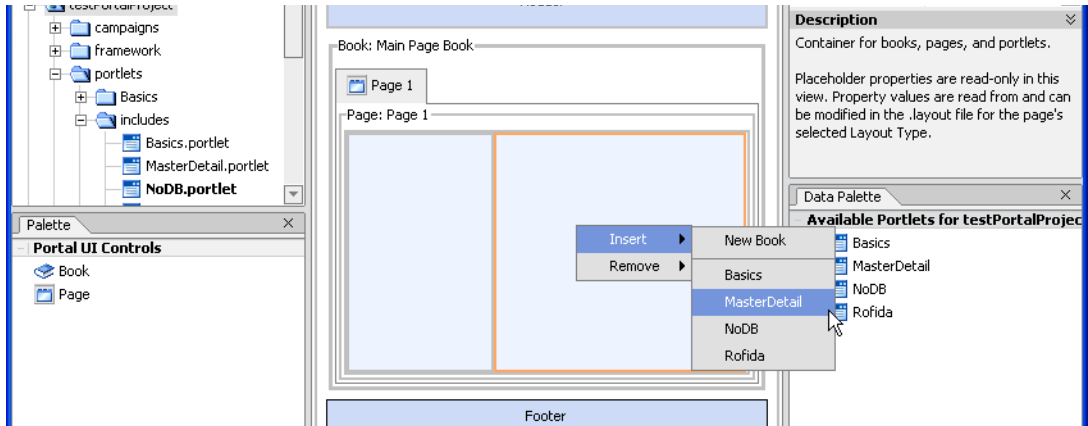
ポートレットはターゲットポータルに配置されていますが、それを利用できるようにするには、まだいくつかの構成が必要です。

WebLogic ポータルのポートレットを構成するステップは、以下のとおりです。

1. ポータルサーバを開始します。  
ターゲットポータルは、継続する前に配備されて実行されている必要があります。
2. **スタート > すべてのプログラム > BEA WebLogic Platform 8.1 > WebLogic Workshop 8.1** を選択して、BEA WebLogic Workshop を開始します。  
Workshop ウィンドウが表示されます。



3. “Main Page Book” パネルのページ 1 領域で右クリックをして、**Insert > MasterDetail** を選択します。



ポートレットは、testPortal ポータルのページ 1 に追加されます。

4. BEA WebLogic Workshop ツールバー上で、**Save** ボタンをクリックします。

### タスク 3: ポートレットの表示

ポータル上のポートレットを表示する 2 つの方法があります。

- **Portal > Open Current Portal...** を選択して、BEA WebLogic Workshop のポートレットを表示します。
- URL 経由でポータルにアクセスします。ブラウザに以下を入力します。

`http://<hostname>:<port>/<portalProjectName>/<portalName>`

この例では、URL は以下のとおりです。

`http://localhost:7501/testPortal/<portalProjectName>/<portalName>`



---

## Oracle の NXJ アプリケーションポートレットの作成

Oracle 10g ポータル上で Unify NXJ アプリケーションのポートレットを作成するには、最初にポートレット定義を指定して、次にポータルサーバのポートレットを構成します。

---

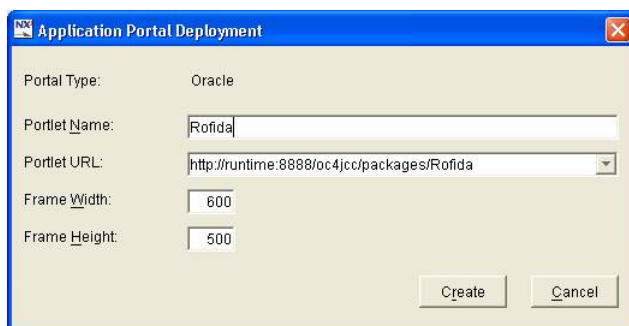
**注** – このセクションのスクリーンショットは、Oracle 9iAS Portal Release 2 を使用していますが、Unify NXJ のリリースは、Oracle 10g ポータルで動作保証されます。

---

### タスク 1: ポートレット定義の指定

ポートレット定義の情報を作成するステップは、以下のとおりです。

1. カレントのアプリケーションサーバタイプを確認します。  
NXJ アプリケーションデザイナーのコントロールセンタは Oracle アプリケーションサーバ上に配備される必要があります。
2. NXJ アプリケーションデザイナーで、ポートレットとして構成する完成したアプリケーションのプロジェクトを開きます。  
カレントのアプリケーションパッケージが存在しない場合は、**プロジェクト > 配備**を選択して作成します。
3. **プロジェクト > ポータル配備の作成** を選択します。  
アプリケーションポータル配備ダイアログが表示されます。



NXJ アプリケーションデザイナーが、NXJ ポートレットインテグレータ機能のサポートをライセンスされている場合のみ、このコマンドがプロジェクトメニューに表示されることに注意してください。

- 
- ダイアログのフィールドに以下の情報を入力、または確認します。

**ポータルタイプ**（読み取り専用）：カレントコントロールセンタのアプリケーションサーバのタイプ。Oracle を指定します。

**ポートレット名**：ポータルで識別されるポートレットの名前。デフォルトで、カレントプロジェクト名が使用されます。この例では、名前は Rofida です。

**ポートレットの URL**：ポータルで NXJ アプリケーションの開始で使用する URL。デフォルト値は、NXJ アプリケーションのデフォルトのエントリポイントです。現在、配備されているアプリケーションのエントリポイントがドロップダウンリストに表示されるので、その中から選択します。ポートレットの実装に使用する有効な URL を入力します。

**フレームの幅**：ポータルページのポートレット領域の幅（単位：ピクセル）。デフォルトは 600 です。

**フレームの高さ**：ポータルページのポートレット領域の高さ（単位：ピクセル）。デフォルトは 500 です。

- 作成** ボタンをクリックします。

コントロールセンタは、

`<UNIFY_WORK>/projects/<projectName>/output/OraclePortlet/<applicationPackageName>.ear` で、ポートレットの配備情報の EAR ファイルを作成します。例えば、Rofida の場合、EAR ファイルは

`C:/NXJWork/projects/tutorial/Rofida/output/OraclePortlet/Rofida.ear` にあります。

## タスク 2: ポートレットを構成してターゲットポータルに配置する

ear ファイルを配備して、ポートレットのプロバイダを登録するステップは、以下のとおりです。

1. Enterprise Manager Web サイトにログインして、OC4J ポータルエントリをクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager console for Application Server: lab10.LAB10.sac.unify.com. The 'System Components' section is expanded, and the 'OC4J Portal' entry is selected. The table below shows the details of the system components.

Select	Name	Status	Uptime (days)	CPU Usage (%)	Memory Usage (MB)
<input type="radio"/>	BC4J	✓			
<input checked="" type="radio"/>	Clickstream Collector	✓	2.169	3.13	11.164
<input type="radio"/>	HTTP Server	✓	2.169	0	38.516
<input type="radio"/>	OC4J_Demos	✓	2.169	0	33
<input type="radio"/>	OC4J_home	✓	2.168	0	33.73
<input type="radio"/>	OC4J_Portal	✓	2.168	0	250.727
<input type="radio"/>	Portal:portal:7777	✓			
<input type="radio"/>	Single Sign-On:orasso:7777	✓			
<input type="radio"/>	Web Cache	✓	2.168	0	43.363

OC4J ポータルエントリ (ステップ 1)

Deployed Applications ページが表示されます。

2. Deployed Applications ページで、**Deploy Ear file** ボタンをクリックして、配備処理を  
始めます。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager interface for the OC4J Portal. The browser address bar indicates the URL: `http://lab10.sac.unify.com:1810/emd/console/ias/oc4j/instance?type=oc4j&ctxType1=oracle%5Fias&farm=lab10.LAB10.sac.unify.com&target=`. The page title is "Oracle Enterprise Manager - OC4J\_Portal - Microsoft Internet Explorer".

The main content area is titled "Application Servers" and shows the path: `Farm > Application Server: lab10.LAB10.sac.unify.com > OC4J_Portal`. The page is refreshed at Tuesday, October 28, 2003 3:33:41 PM PST.

The "General" section shows the application is **Up** with a status icon. The start time is **Oct 22, 2003 1:34:59 PM PDT**. There are **1** virtual machines. Buttons for "Stop" and "Restart" are visible.

The "JDBC Usage" section shows:

- Open JDBC Connections: **6**
- Total JDBC Connections: **6**
- Active Transactions: **0**
- Transaction Commits: **0**
- Transaction Rollbacks: **0**

The "Status" section shows:

- CPU Usage (%): **0**
- Memory Usage (MB): **121.102**
- Heap Usage (MB): **107.649**

The "Response - Servlets and JSPs" section shows:

- Active Sessions: **20**
- Active Requests: **1**
- Request Processing Time (secs): **0.04**
- Requests per Second: **0.263**

The "Response - EJBs" section shows:

- Active EJB Methods: **0**
- Method Execution Rate (per sec): **0**

The "Deployed Applications" section shows the "Default Application" with Name `default` and Path `application.xml`. Below this, there are buttons for "Deploy EAR file" and "Deploy WAR file". A table with the following columns is visible: "Select Name", "Path", "Parent Application", "Active Requests", "Request Processing Time (secs)", and "Active EJB Methods". The table currently shows "1-9 of 9" items.

Deploy Ear file ボタン (ステップ 2)

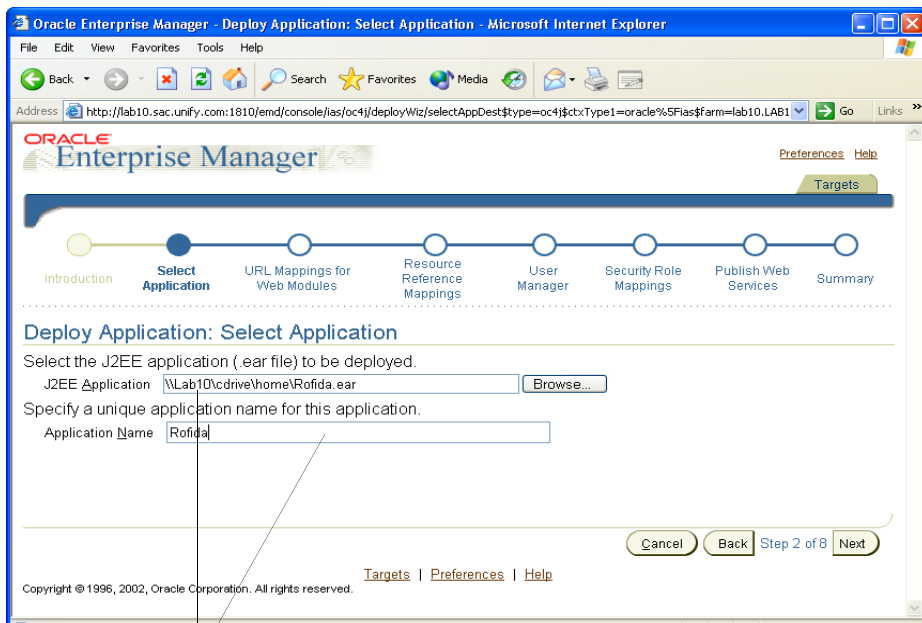
Introduction information パネルが表示されます。

3. **Next** ボタンをクリックします。

Select Application パネルが表示されます。

4. 配備情報として NXJ アプリケーションデザイナーで生成された EAR ファイルのパスを入力するか、Browse ボタンを使用してファイルシステム上から検索します。

また、Application Name フィールドで、ポートレット名を入力します。この例では、ポートレット名は“Rofida”です。



EAR ファイルの場所とアプリケーション名 (ステップ 4)

5. **Next** ボタンをクリックします。

URL Mappings for Web Modules パネルが表示されます。

デフォルト URL バインディングが提供されますので、必要に応じて変更します。

6. **Finish** ボタンをクリックします。

ポートレットをさらに構成する場合には、Finish ボタンではなく Next ボタンをクリックします。

Summary パネルが表示されます。オプションを再確認して必要な変更を行います。

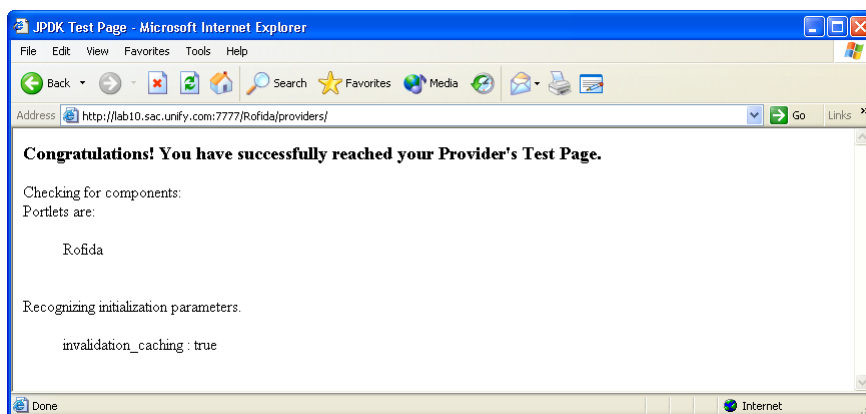
7. **Deploy** ボタンをクリックします。
8. プロバイダのテストページにアクセスします。

Web ブラウザ URL フィールドで、プロバイダのテストページへの URL を入力します。

`http://<server name>:<port>/<portlet name>/providers/`

この例では、URL は `http://lab10.sac.unify.com:7777/Rofida/providers/` です。

“Congratulations” ページが表示されます。

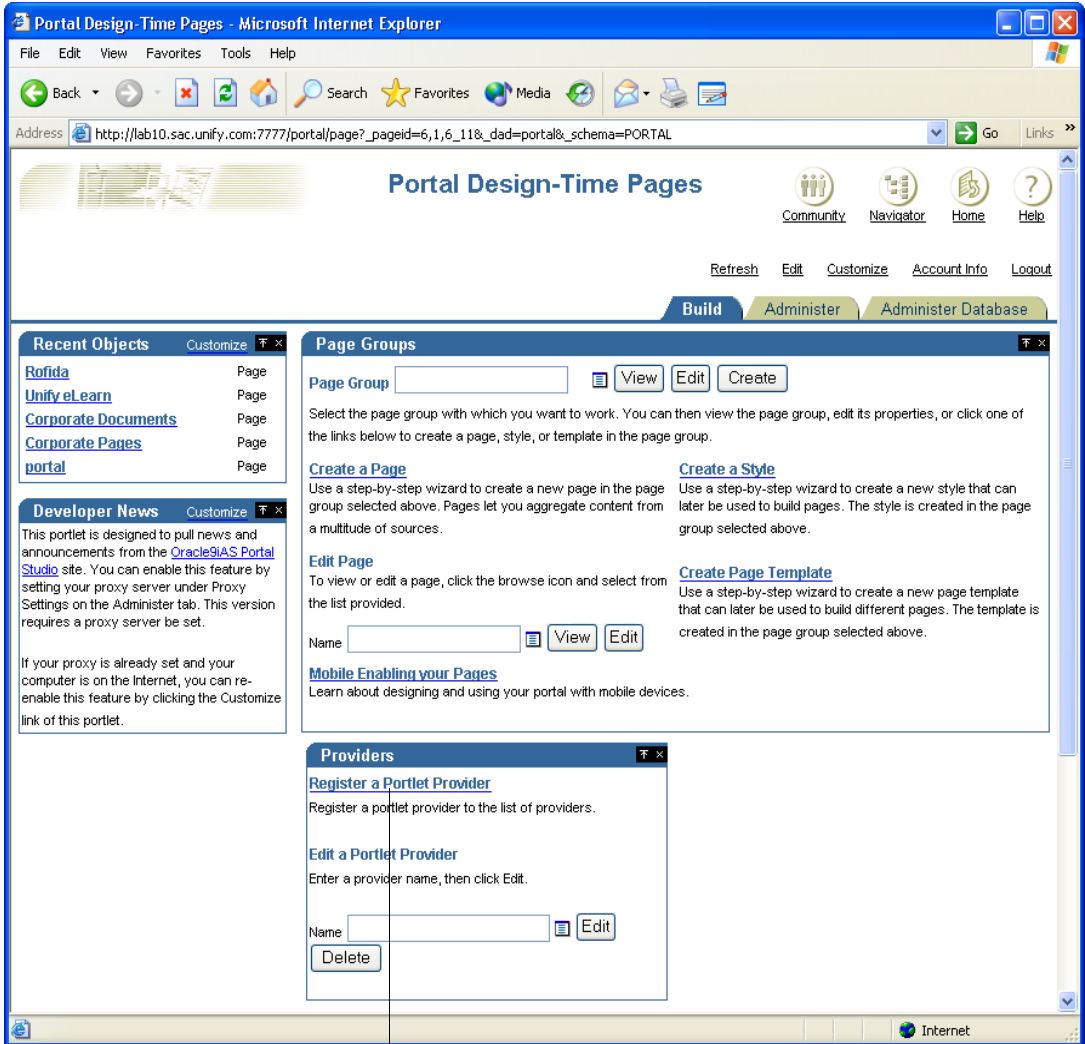


### タスク 3: ポータルの構成

1. Oracle ポータルページを開きます。
2. ポートレットのターゲットである Oracle ポータルにログインします。  
プロバイダを登録するための特権 / 権限を持つユーザでログインします。デフォルトで、ユーザは “portal” で Oracle 管理者パスワードを使用します。  
ログイン後、Portal Home ページが表示されます。

3. **Builder** ボタンをクリックします。

Portal Design-Time Pages ページが表示されます。



プロバイダのリンクを登録する (ステップ 4)

4. Build パネルの Providers グループで、Register a Portlet Provider リンクをクリックします。

Add Provider パネルが表示されます。

Provider 登録情報を入力します。Name, Display Name, Timeout, Timeout Message を入力する必要があります。Implementation Style を “web” に設定します。この例では、名称は “Rofida” で表示名は “UnifyRofida” です。

Step 1 of 3

### Provider Information

Enter a unique name for the provider, the timeout (in seconds), the timeout message, and the provider implementation style. The timeout message is presented to the user when a portlet takes longer than the specified time to execute.

Name	<input type="text" value="Rofida"/>
Display Name	<input type="text" value="UnifyRofida"/>
Timeout	<input type="text" value="1000"/> seconds
Timeout Message	<input type="text" value="Rofida timed out"/>
Implementation Style	<input type="text" value="Web"/>

Copyright © 2001, Oracle Corporation. All Rights Reserved

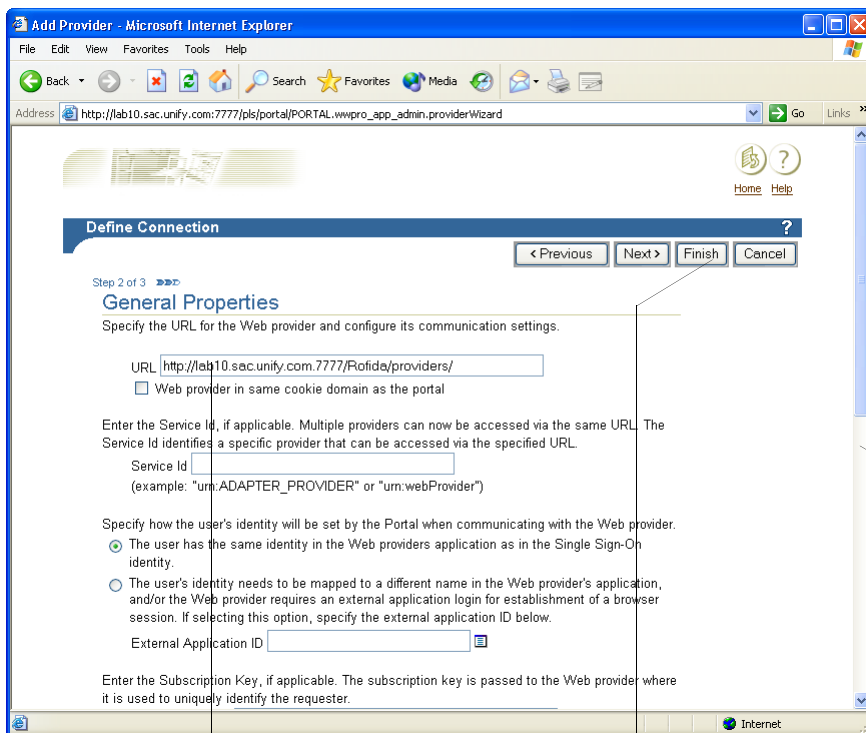
5. Next ボタンをクリックします。

General Properties パネルが表示されます。以下のような Web プロバイダの URL を入力します。

`http://<server name>:<port>/<portlet name>/providers/`



この例では、URL は `http://lab10.sac.unify.com:7777/Rofida/providers` です。



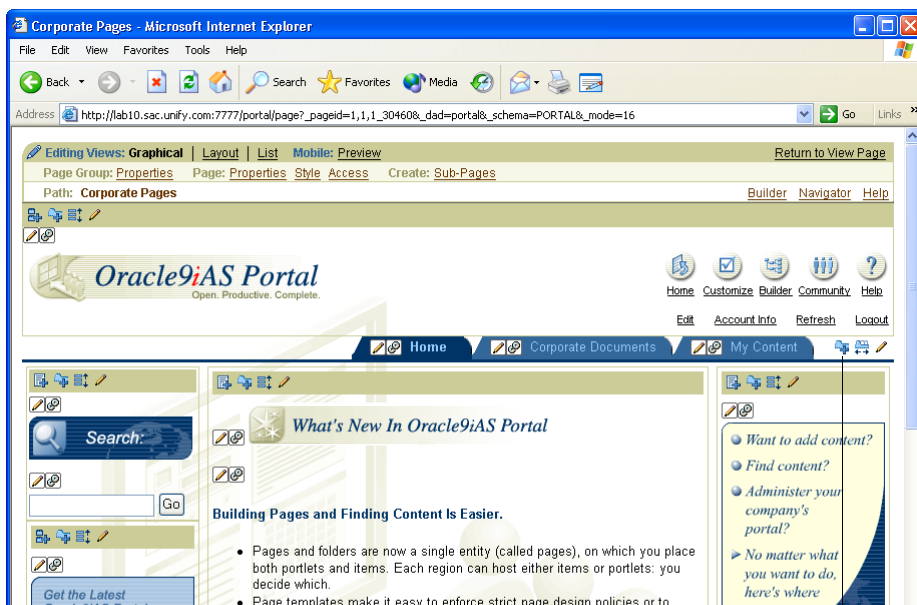
プロバイダの URL を入力 (ステップ 5)

Finish ボタン  
(ステップ 7)

User/Session Info group へ  
のスクロール (ステップ 6)

6. General Properties の User/Session Information グループで、Public option を指定します。  
User/Session Information グループの位置までスクロールします。
7. **Finish** ボタンをクリックします。  
Portal Design-Time Pages ページが表示されます。

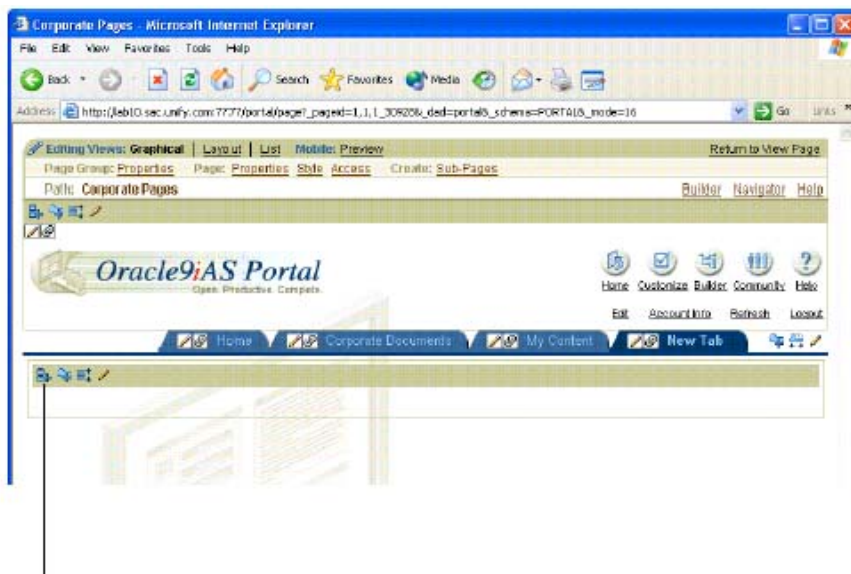
8. ホームページにアクセスするために、**Home** リンクをクリックします。
9. **Edit** ボタンをクリックします。
10. **Add Tab** ボタンをクリックします。



Add Tab ボタン (ステップ 10)

空の新しいタブが表示されます。

11. 新しい空のタブ上で、**Add Portlet** ボタンをクリックします。



Add Portlet ボタン (ステップ 11)

Add Portlets to Region page が表示されます。

12. Add Portlets to Region page で、**New** リンクをクリックします。  
利用可能なポートレットの一覧が表示されます。
13. ポートレットの表示名をクリックします。  
この例では、表示名は“UnifyRofida”です。
14. ポートレット名をクリックします。  
この例では、ポートレット名は“Rofida”です。

15. **OK** ボタンをクリックします。

ポートレットが、Portal Design Time ページに表示されます。

